

懸け橋として、地域と世界をつなぐ

2回にわたって農家の野世さんにお話を伺いました。

～自然とともにやさしく～ 風のコラム【後編】

「未来へ」

こんにちは。兵庫県の日本海側に位置し、コウノトリ但馬空港がある豊岡市で農業を営みながら無添加石けんを作っている野世（のせ）と申します。コウノトリと暮らす豊岡の暮らしについて、今回は私が無添加石けんを作り始めたきっかけとともにご紹介します。

私が、石けんを作ろうと思ったきっかけは、三人目の子どもがお腹にいることでした。肌の状態が悪く、保湿クリームを塗ってもカサカサ。お風呂に入ったら、かゆみに悩まされる日々でした。妊娠中「赤ちゃんに良いものを…」と調べていくうちに、より安全で安心な石けんを自分で作れることを知りました。そこで出産後に本格的に石けんづくりを始めました。

同じ時期に、豊岡で、「コウノトリ育む農法」と出会いました。生き物を育みながら、お米を栽培するというコンセプトに惹かれ赤米を栽培することにしました。生き物が田んぼの中に住み、コウノトリのえさ場にもなり、安全と安心を実感します。私はこの赤米を使って石けんを作っています。この石けんは、排水に流されても自然分解できるため、川の生き物のえさになります。赤ちゃんとお肌の悩みを抱える方々のために自然にも肌にも優しい石けんを作れることにとってもやりがいを感じています。

赤米は、お米が赤色に色づくまでに日にちがかかります。例年8月ごろ稲穂が赤く色づき、田んぼは一面赤く染まります。そして徐々に、お米に赤い色素が移り、稲穂は、茶色へと変化していきます。赤米は赤飯の起源と言われるお米で、お供えやお祝い事に頂く大変縁起の良いお米です。この赤米のヌカを配合した手作りの無添加石けんには、お肌と、心に幸せが訪れますようにと願いを込めています。

現在、豊岡では小中学校の給食にコウノトリ育む農法のお米が使用されています。小学校の授業では、生き物調査が実施されたり、環境の学習で、廃油石けんづくりを生徒と体験したりしています。中学校では、修学旅行の際、東京のアンテナショップで、コウノトリ育む農法のお米、赤米等、地場の商品を販売体験しています。栽培や販売の知識を高め、住んでいる町の良さを改めて知る学習について、子どもも大人も一緒になって街全体で取り組んでいます。



石けん作りを始めたころに生まれた息子は、現在小学4年生になりました。自然の中で、すくすく育っています。2回に渡って豊岡の暮らしの一場面についてコラムという形でご紹介させていただきました。このコラム

を読んでくださっているご旅行、ご移動中のみなさん、豊岡はとても自然に恵まれ、温かな人々に包まれた街です。ぜひ、機会がございましたら、コウノトリの翔ける豊岡でお会いできる日を楽しみにしております。

野世 英子

(「人、自然にやさしいお店 moko」代表)

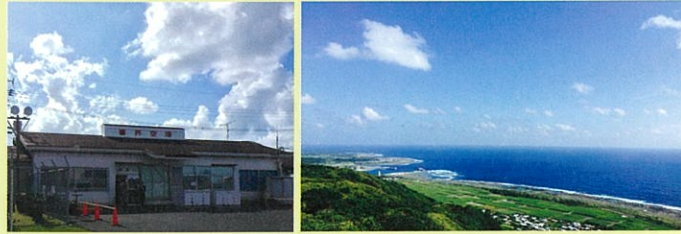
兵庫県豊岡市出身。結婚・出産を機に、より安全で安心な食べ物を家族に食べてほしいという想いで「コウノトリ育む農法」を開始。無農薬で栽培した赤米・コシヒカリを使用した商品開発等、自然を心から感じてもらえる活動に取り組んでいる。



～表紙クイズの答え～

正解は、「喜界ターン」です。

鹿児島県 奄美大島の東に位置する喜界島は人口約7千人の島です。喜界空港を訪れるお客さまは、しばしば「まるで鉄道のローカル線の駅のようなかわいらしい空港!」とコメントをくださいます。



3月末は進学や通勤のために、島を離れる方が多い季節になります。多くのお見送りの方が、別れを惜しみそして家族・友人の新生活へのエールのため、喜界空港にお越しください。この小さな空港では、離陸前、左右の窓際に座るお客さまが、それぞれお見送りにいらしたみなさんを機内から見られるように、空港エプロン内で8の字に走行して出発する風景がみられます。みなさまから「喜界ターン(※)」と呼んでいただいています。この「喜界ターン」はJACの乗務員に代々引き継がれています。

※「喜界ターン」は、運航状況、安全上の理由から実施されない場合もございます。

満開のチューリップ畑に玄さん!?



兵庫県豊岡市但東町のたんとう花公園では、毎年春になると、チューリップのフラワーアートが来園者を楽しませてくれます。例年300種類、100万本のチューリップが園内を彩ります。また、豊岡市には160万年前に起こった火山活動で流れ出した溶岩が冷え固まってできた5つの洞があり「玄武洞公園」として整備されています。日本の地質百選にも選ばれ、ユネスコ世界ジオパーク「山陰海岸ジオパーク」のジオサイト認定を受けています。この玄武洞公園の人気キャラクター(渋キャラ)として活躍中の「玄武岩の玄さん」は、玄武岩のかたさ(硬さ)から「かたい絆」を連想させ、「縁結び」に一役買うということで、「縁結び玄さん」とも呼ばれているそうです。

2018年の春は、玄武洞公園から「玄武岩の玄さん」とATRの飛行機がフラワーアートとなりチューリップ畑の上を舞う予定です。(イラストは、草野整備士が描きました。)みなさん、ぜひ「たんとうチューリップまつり」そして「玄武洞公園」にお越しください。



玄武洞と紫陽花

編集後記



2回にわたって野世さんにコラムを寄せていただいた。私自身、自然と共存しながら地域とともに暮らす日々について知る機会となった。JACの就航地は、魅力溢れる自然がたくさんあり、それぞれの自然との共存の在り方、暮らし方がある。各地の魅力をつなぐ懸け橋として、一便一便想いをのせて大切につないでいきたい。コウノトリの野生復帰を支える「コウノトリ育むお米」は、今、小さな世界都市豊岡の街から世界に発信され、そして未来にバトンが繋がる。

(ゆいタイム編集員 森原)

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

Vol.6

JAC NOW

～ゆいタイム～



クイズ: 喜界空港ならではの お見送りは?

お手にとってください、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、社員手作りの機内情報誌を2016年秋より発行しており、今回、第6回目の発行となりました。お客さまとつながるゆい“結い”の時間を、そして、地域航空として各地域を“結ぶ”情報をお届けしたいという想いを込め、ゆいタイムと名付けております。ふたつとない今日のこの空の上でのお客さまとの出逢い。ゆい“唯”タイムを、『JACNOW～ゆいタイム～』を通じて、優しく心つながる時間として、お過ごしいただけましたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞお気軽に、客室乗務員までお寄せください。

また、バックナンバー(vol.1～5)をご覧になりたい方も、どうぞお気軽に客室乗務員までお声掛けください。



みなさまへ

本日もJAC便にご搭乗くださいましてありがとうございます。当社が運航している但馬空港(豊岡市)で、現在使用されているSAAB340B型機に代わって、2018年度よりATR42-600型機(以下ATR)が就航するのにも先立ちまして、2017年10月に見学会が開催されました。

当日はATRを歓迎するかのような快晴の中、但馬空港に到着しました。展望デッキには手を振る人々が鈴なりになっている状況を見た添乗スタッフは、お客さまの多さに機内で驚きの喚声をあげました。そのあと近隣市町の住民の皆さまや報道関係者等約150名が機内を見学し、座席に座ったり乗り心地を確かめてもらっていました。「綺麗で席もゆったり。機内で快適に過ごすことができそう」、「翼が上についているので景色が良く見えそう。乗ってみたい」等、見学された皆さまからコメントを頂き、一日も早い就航への期待感をひしひしと感ずることが出来ました。

今回の見学会で住民の皆さまから頂いた熱い期待と想いをしっかりと受け止め、一日も早くATRを但馬に就航できるようにこれからも努力したいと思います。そして、最近好調な但馬=伊丹線の利用率を更に向上させるよう、地元の皆さまと一緒に尽力する所存です。

引き続きJACを宜しく
お願い申し上げます。



日本エアコミューター株式会社
代表取締役社長 加藤 洋樹



本日もご搭乗くださいまして誠にありがとうございます。昨年12月末まで就航地域リエゾン室で隠岐を担当しておりました秋尾です。今日は島根県の隠岐についてご紹介します。

さて卒業や入学シーズンを迎え、日本海に浮かぶ島にもようやく春の訪れを感じるころ、島根県隠岐の島を彩る花が咲き始めます。そこは隠岐の島町の北部に位置する五箇地区の広大な「シャクナゲ園」。広さは約2ヘクタールで1万株が植えられ、日本のシャクナゲだけを集めたものとしては日本一と言われている。4月下旬から5月上旬の見頃には一斉に花を咲かせ、あたり一面にピンクの絨毯が敷き詰められたようになり、訪れた多くの人々を魅了します。ここに植えられているのは「オキシャクナゲ」で、隠岐の自然環境によって変異した隠岐特有の品種。中国山地に生息するホンシャクナゲに比べ開花時期がやや早く、丸みを帯びた小さく薄い葉が特徴で、また同じ島内の布施地区には自生地もあります。毎年花の見頃には「しゃくなげ祭り」が開催されます。

♪ 隠岐は絵の島 花の島
磯にや波の花咲く 里にや人情の花が咲く

これは隠岐の民謡「しげさ節」の唄いだし。春色の唄にのり隠岐は本格的な観光シーズンを迎えます。隠岐は「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されています。

日本海の荒波が創り出した景勝地等の見どころがたくさんある隠岐の島へ、ぜひいらしてください。

運用グループ 秋尾 良仁



